

ふれあいと語らいの同窓会



東実同窓会報

NO.3

発行 千144 東京都大田区西蒲田8-18-1 TEL.03-3732-4481

東京実業高校同窓会編集委員会

創立70周年記念に寄せて

会長 村松 濱代



同窓会報も委員の皆様方のご努力によりお陰様で第3号を発刊する運びとなりました。私も同じですが文章を書くということは中々おつくうなもので、人前でお話しをするのは大変上手でも文章を書くのは苦手な人や、文章を書くのはたやすいが、人前でお話しをするのは勘弁してくれという人もあり、人それぞれの得手不得手があるものです。同窓会報の原稿なども、同期の方やこの人なら書いてもらえるのではないかと自分で勝手に決めて原稿をお願いすると、私は忙がしくて書けないから誰か別の人に依頼して欲しいと断られることもしばしばです。いずれにしても同窓会報の3号が出来上りましたことは各方面からご多忙のところ原稿を頂戴いたしましたことに厚くお礼を申し上げます。

昨年の10月14日に全国同窓会協議会なるものが発足するので是非参加して欲しいとの案内状が届きました。これは各校の同窓会の役員が一堂に会して、今日迄の同窓会の活動について発表し新しい方向性を見出さそうという主旨の関東地区同窓会サミットの会合があるということで、何か得ることもあるのではないかと、私と本田位公子副会長、井上実幹事、米田事務局と4名で会場は明治記念館へ参加して参りました。参加者は各校から約70名程出席し、時間の都合もあり主催者側からの指名のあった学校がそれぞれ自校の同窓会の経過、運営方法、年間の行事、予算等について発表されましたが、どちらの学校も同窓会の運営に頭を悩ましておるのが実情のようで、同窓会費の徴収が思うように出来ないことが第一で従って同窓会名簿の発行、同窓会報の発行なども実際に行いたいのだが資金の捻出が不可能なのでどのようにしたらよいかその点を模索しに今日出席したのだがという学校が多かったようです。しかし中には2校程相当な活動をしておるところもありました。

当校も他の学校の同窓会の行事その他で参考になるも

のが伺えるのではないかと期待して参加したのですが、全く得るものはなくむしろ当校の発言が他校の参考になったようで、色々と質問された次第で同窓会としては上の部であることを認識しました。これは他校と比べて同窓会に学校が期待されておるのだとつくづく感謝しました。

今年は当校が大正11年に創校し満70年の創立記念の年に当たります。おそらく学校をあげてお祝の行事が催されるものと存じますが、具体的な催しごとが決まりましたら同窓の皆様も是非参加していただいて心から母校の繁栄を祝福したいものだと考えております。

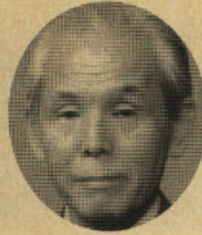
皆様にも既にご案内しております通りこの70周年を記念して、同窓会名簿の第4版を発行いたします。過去3回の名簿の発行は22期の井上さんが中心となり手造りで名簿の作成をして参りましたが、尚一層の正確な名簿を作成したいものと幹事一同が賛同しまして、今後の名簿作成の基礎をしっかりと作っておこうということで、情報出版株式会社に資料の作成を委託しましてコンピューターに同窓生の名簿を登録し、住所の変更その他を修正できるようにしました。従ってご返信をしてくれなかった方には3回迄名簿資料作成のおはがきをお送り申し上げ正確を期しております、費用も皆様方が想像する以上に消費することと存じますがご協力をお願い致します。ただしデザイン製本その他については井上さんが中心となって作成することになっております、発行は10月頃の予定で学校の創立70周年の記念の催し迄に間に合うように企画しております。

生徒数も現在2,078名を数え今年の卒業予定者も698名であり、また新たに同窓会への加入者も増える次第です。東実の増々の発展と同窓会諸兄のご健闘を心からお祈り申し上げます。

さらば東実

—歴史と人生の半分—

学校長 井上 稔



私は1922年（大正11年）3月28日生れである。東京実業高校の創立も1922年で、平成4年は創立70周年を迎えることになるが、私もこの年の3月28日に「古稀」を迎えることになる。想像をも加えて考えてみると、大正11年の3月28日（私の生れた日）、東京実業は第一回の入学生の募集を終えて、4月の開校式を待つばかりという状態にあったろう。しかし、独立した校舎もなく、午後3時から午後8時までという定時制のみの発足で、これからの学校運営に大きな不安を抱えての出発であったことは想像にかたくない。しかも間借りしている本家の東京中学は、既に50年の歴史を誇る名門校であった。創立2年目の1923年にはあの関東大震災の被害をうけて、校舎ばかりが生徒の住居そのものが灰燼に帰してその消息すら不明という惨事となるのである。あらゆる状況から判断しても、東京実業は創立と同時に、存続か廃校かの岐路に立たされたといえるのである。この創立の苦しみはその後も数年は続いている。こうした悪条件の中で、「実業教育」の必要性を訴え続けて万難を乗り越えて本校の基礎を築いていった創立者の情熱は何だったのだろうか。

話は変わるが、私が東実の教壇に立つて間もない昭和34年（1959年）頃だったと思う。偶然だったが上野熊蔵先生と同乗した自動車が交通事故にあって、救急車で病院に運ばれ二人同室で約10日程入院したことがある。夏休みのはじめの頃で、この事件は学校に知られることなくすんだ。熊蔵先生は腰をいためてしばらくはベットから動けなかったが、割合に元気で、私達は入院中の大半を東実の教育や歴史について語り合う時間にあてる事が出来た。上野熊蔵先生は東京実業のほんとうの生みの親であり、その創立当初の苦しみを主事として自ら味わった人である。この機会は、私自身の教育者としての姿勢にも大きなターニングポイントになったと思っている。熊蔵先生が「実業教育」に熱意をもった動機は本人の説話等でよく知られている。

大正8年頃（1918年）25才だった熊蔵先生は、ある代議士の依頼をうけて当時植民地だった台湾に製糖会社を設立するために避地の台東に赴任する。その時与えられたスタッフは大学卒10人、中学卒以下10人で、あとは大

勢の現地採用の人々を使つての大きな事業であったようだ。ところがここで熊蔵先生は大きな発見をする。現地荒野の開拓から生産工程、労務管理にいたるまで、大きな力を発揮して、この事業の中核となって進めたのは、大学卒の10人ではなく中学卒以下（現地採用をふくめて）の人々だった。彼等は自分の持つ知識や理論が高いものでなくとも、いかに実際に通用させられるか、いかに実地に活用するかを身につけている。彼等は学んだ学問知識を実際に試み、更に足らざるを学ぶという勇気をもっている。それは唯単に理論を積み重ねただけの大学卒の連中とは一味ちがった能力だということを心から認識させられたというのである。そして、学校における教育は実際に直結した「学びそしてそれを試み、更に学ぶ」という実業教育でなければならないと考えた。台湾から帰った熊蔵先生は岳父であり創立者である上野清先生にその主張を説いて、遂に上野塾50年の歴史に新しい方向を生み出すのである。東京実業学校の誕生であった。私はあの病院のベットで大声で語った上野熊蔵70余才の瞳の輝きを今も忘れることは出来ない。それはたしかに、私の人生にとっても一つの方向転換という意味をもっているからである。

私が東京実業高校ではじめて教壇に立ったのは正式には昭和34年（1959）であるが、その前2年程、専門学校の設定などでかかわりをもった。それから考えると、私は今までの人生の半分以上を東実にかかわりを持ったことになり、その35年は東実の歴史の半分に当たっている。これは一つの因縁というべきものだろう。同時に、平成4年は私個人にとっても、東実にとっても70年という一つの大きな節目となる。その節目を大切に考えて、私は平成4年3月末をもって東実を去りたいと思う。

私は「学び試みそして学ぶ」の姿勢は学校教育の基本だと今でも信じている。これは東実の創立以来流れている教育方針でもある。

私の非力のためにこの学校でやり残したことは極めて多いのだが、私の人生の半分以上を東実で過した満足感のほうが更に大きい。この大きな節目に、東実創立の精神をリファインするために新しい力が必要だと思う。さらば東実。



創立70年を迎えて

理事長 上野 雅子

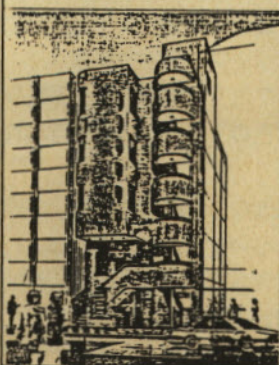


東京実業高校も今年は創立70周年を迎え人間でいえば古稀の祝いになります。昔は70才といえば“古来稀なり”という事で、古稀といわれたと聞いた事がありますが、今では人生80年。70才というのはまだまだ若いと言われるようになりました。時代が変わり、文化文明化学等、どんどん発展していきますと、昔の言葉も変化していつてしまう感じがしますが、高校が70年という長い年月存続しますと、その間に多くの卒業生を世に送り出し、あらゆる分野で、それぞれ皆様方御活躍なさっていらっしゃいます。私が理事長職につきましてから、早や3年以上経つわけですが、その間に、御年配の同窓生の方々のクラス会などにお招きをいただき、父の思い出話などから、私が生れる前の学校の様子などを伺い、いろいろ勉強させていただいております。当時の写真なども時々拝見することがありますが、皆様の若かりし頃のお姿と現在のお姿——ある方は白髪となり、また、ある方は大分髪が薄くなられてと、様々であるが——を見比べますと、年はどんどん増えていらっしゃいますが、面影は当時と変わらず、同期生の方々とお話をしていらっしゃるお姿は、まるで学生時代に戻ったように若返っておられ、昔も今も学生時代というのは、その人にとって本当に良き思い出になるのだと、つくづく感じます。

昔も、今と同様、秀才グループ、不良グループ、いたずらグループ等と分れていたらしく、“僕と〇〇達は、本当に悪くて、よく先生にしかれたものだ。”等、話に出てきますが、今と比べてどうなのでしょう？ 悪の度が違うのでしょうか？ 現在、本当に立派になられ、すばらしい人生を築いていらっしゃる先輩方を目の当りにしますと、昔は出来なくてどうしようもなかった等と同っても、昔の片鱗さえも窺えず、話を面白くさせているのではないかしらと疑いたくなりますが、もし本当の事でしたら、今手のつけられない程、先生方を悩ませている生徒でも、社会に出て頑張れば、学生時代とは違った才能を発揮するかもしれませんね。えてして、教育とは、教えられる事をよく理解し、試験でも生面目に良い点数をとる生徒達が、良い生徒であると評価しがちですが、本来は、その子の持っている本当の力を引き出し、伸ばしてやらなければ、育てたとは言えないわけで、その点、教師たるもの、常に心にためておかなければならないと思っております。

高校も始めは、本当にこぢんまりと纏まった人数で、充分なゆとりを持って、先生も生徒も勉強していた事と思いますが、現在のように高校教育が義務教育と同じ位に、ほとんどの中学生が高校進学を希望し、入学して参りますと、人数も増え、それに伴い先生方の雑用も増え、なかなか勉強だけに専念するという状況ではなくなってしまいます。加えて世の中の様子も、子供達には誘惑と欲望の渦巻く環境となつてしまい、ともすれば、悪い方の道へと進みかねない危い状態である。またむりしても上に行つて勉強したいと願う生徒にとっては、大学入試という絶対にさげられない壁があり、先生も生徒もそれに振り廻されているのも事実です。前理事長、上野幸一健在の折に、盛大に祝った60周年から早や10年が経ち、この10年間に目まぐるしい程、日本は言うに及ばず、全世界が変わつてゆきました。時の流れは、人間の思惑などお構いなしに行つてしまいますが、21世紀迄、早や8年この間にどうまた変わつてゆくのでしょうか。教育という、これからを担う子供達を教える職業に従事する者としてその責任の重さに慄然とする思いがしますが、いつの世になつても不幸なもの、人間としてどうあるべきか、何が大切で、何が無用か、地球上に存在するあらゆる物と人間との係わり方など、今、地球が抱えている全問題をもう一度、原点に戻つて考えなおし、若い人達と話し合つていけるそんな場所にしていけたらと考えております。

未来に先がけた都市空間プロテュース



(プロテュースとは)

一つの建築物がその場所にその空間に存在する、しかし、それは経済性、機能性、地域性等、数十年先を見たものでなければなりません。建物は生きています。そこにはドラマがあるのです。

私達の夢は多様な人々の空間と都市の未来をみつめ、いつまでも新鮮で機能的な都市空間造りなのです。

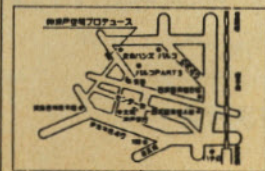
これまでの都市開発は自然体での再開発が進んで参りましたが、これからはそれを見通しての都市企画、プロテュースがなくてはならないのです。

特に商業ビルは、耐用年数からしても、当然テナントの移り変わりがあることは予測されます。どんな状況におかれても壊さないビルを考える、その気配りがビルの価値を上げる結果になります。

未来に先駆け企画プロテュースなくして不動産の有効利用は出来ないので、

私達は、力の限りそのお手伝いをしてまいりたいと考えています。

第42期生 瀬戸 盛義



○商業ビルの企画コンサルティング ○建築設計監理業務
○不動産仲介業務 ○ビルの経営代行管理業務



株式会社 瀬戸空間プロテュース

〒150 東京都渋谷区宇田川36-4 豊田ビル2F

TEL3770-1221特

学校からのたより

東実この1年

—東実祭、体育祭 クラブ活動についての報告



生徒部長 尾藤 勇

11月2日、3日と開かれた東実文化祭をトリとして本校1年間のおもな学校行事は終了した。この1年間を生徒部の立場から、これら行事を総括してみると。

平成3年度入学式

4月8日704名のフレッシュマンとこれを上まわる多数の父母で、体育館ははちきれような祝賀気分。この中で新年度入学式が行われたのであった。

私学志向が強いとはいえ、地元はもちろん東京、横浜川崎、遠くは千葉、埼玉方面からの入学者であふれたのは、やはり同窓生の皆さんの歩まれた足跡のしからしむるところであって、ゆるぎない東京実業高校の発展を見る思いがいたしました。

リーダー研修会

ゴールデンウィーク前半の4月27日から2泊3日で、生徒会役員と各クラスから1名のリーダーがえらばれ、総勢60名が東実山中湖学寮でリーダー研修会を開いた。この合宿ですでに、体育祭、文化祭、卒業生を送る会などについての綿密な検討がなされ、ミニ文化祭も行われた。

まだストーブを使わなければならない程の寒い山中湖畔だったが、ここ学寮だけはリーダーたちの活気あふれる熱演で寒さも忘れるほどだった。何しろ、仮装大会では女装の水着姿が多数現われたくらいだったから。

この研修会の成功を見て、ことしの文化祭の成功はまちがいなしと、同行された上野毅副校長先生や生徒会担当の先生たちは自信をもったのでした。

バイク実技講習会

本校では過去、バイクによる何件かの死亡事故が発生し、そのたびに職員会議では激論がかわされ、バイク免許取得禁止緊急提案がなされたのだったが、より实际的に指導することが肝心という多数意見から、本校独自の

バイク講習会が開かれるようになった。この効果があらわれたのが、3年くらい死亡事故はなかったが、ことしの6月1人の死者をだし、全校で黙禱をささげ、改めて事故の絶滅を誓ったのであった。

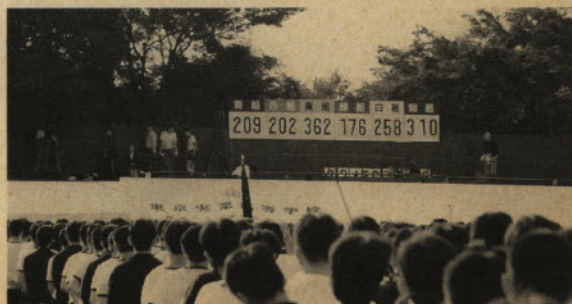
いわゆる東実方式といわれるこの方法は、マスコミがとりあげる以前からやっており、今後とも堅持しながら生徒に交通事故の恐ろしさを教え、正しい交通道徳、交通法規の順守を習慣づけていくことをねらったものである。その概略は、現代の若者はバイクについて非常な興味があるので、隠れて免許をとり、事故をおこすようでは意味がない。ただ禁止するのではなく、家庭から「免許取得願」を提出させ、総合的な見地から許可を与え(不許可もある)るといふものである。その後は定期的に免許証のチェック、交通講話会、実技講習会を強制的に受講させるなど、アフターケアを徹底するというのがその骨子である。前記の生徒がこうした手続き、講習会を受けていれば、そうした悲劇に遭遇してなかったのではないかと思うと残念でならない。

体育祭好天にめぐまれる

10月2日、大井陸上競技場で体育祭が開かれた。ことしは異状気象とかで、この前後雨の多い日がつづいたが、この日は奇跡的(?)に好天にめぐまれ、親師会長、同窓会長をはじめ、多数の父母が見えられ、生徒も大いにハッスル、最高に盛り上ったのであった。

総合1位は商業後半の黄隊、2位にはことし紫隊として独立した普通科がはいり、来年はこの二隊が正面スタンド席に陣取ることになった。いっぽう、白隊(機械前半)は一步及ばず3位に甘んじたのは誠に惜しかった(私も白隊で大いに応援したのだったが)。でも、前年度から格段の躍進ぶりを見ると、やればできるの「東実スピリット」を見たと思った。

応援1位には村松濱代同窓会長からカップが贈呈されるが、ことしは紫隊が男つばい応援で優勝。結果総合1位商業後半、2位普通科、3位機械前半、4位機械後半、5位電気科、6位商業前半だった。



▲体育祭開会式での最終得点結果

輝やく伝統創立69周年

11月1日、この日本校は創立69周年をおかえて記念式典が行われた。1922(大正11)年、東京西神田に呱呱の声をあげた東京実業高校は、ついに70年の齢(よわい)を重ねるにいたったのであり、この間、同窓生は2万2千名をこえ、各界各層でのご活躍のようすをうかがうにつけても、この東実の発展の歴史は、ひとえに同窓生の皆さんの母校愛の賜物にほかならないと、ここに改めて感謝申しあげる次第です。

記念式典では永年勤続表彰が行われ、東実の発展に寄与されたつぎの教職員が表彰された。30年勤続・宮武茂樹、佐藤重穂、20年勤続・小椋幸江、金子健一、須貝茂、足田伸汎、飯塚房子

このあと校内弁論大会が開かれたが、2回目でもあり、去年とは弁士、弁論内容とも一段とよくなっていた。第二部として、洋上セミナー参加者報告、ホームステイ受入者の感想、ニューヨークから本校に1年間留学しているニールハシバ君の日本語のあいさつもあつたり、成績発表前には後藤君(E3A)のピアノ演奏もあるなど、去年より洗練された運営だった。

11月2日午後、本年度の東実文化祭は正式にオープン。立派な歓迎アーチも完成し、二人のピエロが大きく手をひろげて皆様をおかえる図柄はいかがでしたか。開場を待ちかねるように、一般客とくに女子中高生が多く入場してきた。ことしのテーマは「夢——限りなく大きく」だったが、現代の若者が抱く夢は何だったのか、ご来場の同窓の皆様にはご理解いただけましたでしょうか。



▲近來まれにみる傑作との評判高い歓迎門

それはともかく、2日午後4時からには体育館で生徒会主催のイブニングフェスティバルが開かれ、長瀬・郷原両君の司会は玄人はだしのできばえで、聴衆を魅了したのであった。ピアノ、エレクトーン、ダンスなど本校生の隠された才能の一端を披露する画期的な催しで、隣席の女子高生「東実スゴイネ」と小声で喋っていた。イブ

ニングフェスティバル第2部は校庭で本校プラスバンドの演奏、翌日の東京大会用のプログラムを特別に演奏していただいたのであった。秋の暮れなぞむ夜空に、心地よいリズムが遠く弾んで消えた。

翌11月3日の文化の日も好天にめぐまれ、朝から好調に観客はふえ、この2日間で実に5千名に達する入場者を記録したが、これは東実始まって以来最高の人出となった。

本校の場合、先生の転勤がないこともあり50年前の卒業生も来校され、後輩たちの活躍ぶりを目のあたりにすることができるところに、東実の変わらざる人気の秘密があるのだろう。ところで、東実文化祭の目玉は、野菜バーゲンとバザーであり、「東実大バザール」は地下大ホールで開かれ、地域ミニコミ新聞にとりあげられたこともあって、早朝からたくさんのお客さんがみえ、大盛況となり、売上げは実に32万円余になりました。ここに、品物をご提供いただいた在校生ご父母、教職員その他に心からお礼を申し上げます。この売上げにつきまして今後検討しまして大いに役立てたいと考えております。

なお、このバザー運営については、事務所の女子職員にも全面的にご協力いただきまして、ありがとうございました。

テニスコートの特設イベント会場では、腕相撲、仮装、コーラ早飲み、カラオケ大会も行われ、同窓の方々も多数得意のものを披露しておられました。

ことしの展示でめだつたものとして、生徒会の力作和風喫茶、02Bのスターライト夢冒険、ワングル部、サイクリング部の展示や各種売店も趣向をこらしていた。また、12回の伝統を誇る英語スピーチコンテストも本校の特色をよく生かした催しものとして注目されていた。



▲生徒会製作の「究極の喫茶店」は人気絶頂でした



アメリカ高校生来校 校内沸く

今回はむこうからやってくる番で、6月15日、アメリカ文化をいっぱいもってやってきた男3人、女5人の高校生たち、約6週間の滞在中、本校生の家庭にホームステイして、十分日本の夏を満喫したに違いない。

帰国前の7月21日、富士山へ登頂し下山した折、山中湖学寮に宿泊、湖畔で大田区山王小学校生が林間学校にきていて、フォークダンスを踊っていた。彼女たち、さっとその輪の中にはいって、いっしょにダンスするのを見て、本当に国民性のちがいをみる思いがした。もう「マイム・マイム」はいつまでもあわない。小学生たちがせがむのだ。彼女たちに最後までまといつく。小学校の先生たちも笑い、本校の生徒も共に踊って、小学生たちは最後まで手を振って別れを惜しんだ。

満天に輝やく星空のもとキャンプファイヤーは赤々と燃え、遠く花火が湖面に美しく映えていた。高原の夏の日の思い出、そして7月29日、彼等は帰国した。



▲日本のディズニーランドでの楽しいひととき

クラブ活動報告

レスリング部 8月1日より静岡県焼津市で行われた全国高校総体団体戦に、東京代表として出場した同部は、2回戦で青森県勢に敗れ上位進出はならなかった。同じく、個人戦で加々美仁、中村彰博両君も、3回戦まで進出したが入賞はならなかった。

柔道部 柔道部はこのところ大活躍で、東京都大会団体戦で3回戦まで進出、東京都ベスト16位になった。また大田区大会では断然強く、有段者の部Aチーム優勝、Bチーム3位、無段者の部は優勝という輝かしい成績。

サッカー部 本校のサッカー部は最近メキメキ力をつけてきており、地区予選は軽く突破し、本大会では3回戦まで進出し、早実と対戦したが惜敗。結局、東京都ベスト26位。

バスケットボール部 バスケット部も田園調布高校、

日大一高、拓大一高、都武蔵野北高を連覇、5回戦で専大付高と対戦し惜敗したが、東京都ベスト32位となった。

剣道部 全国高校剣道大会個人戦東京都予選に出場した、山田孝司(商)君は5回戦まで進出、参加500人以上中ベスト32位となった。

卓球部 インターハイ団体東京都予選に出場し、大東文大一高、立川高校、東京農大一高を連覇、4回戦で関東一高に破れたが、ベスト32位。城南地区別学校対抗戦では、準優勝。

テニス部 東京都軟庭大会で、2チームがベスト64位となる。城南地区軟庭大会では決勝で東京高校を破り優勝した。大田区大会では逆に破れて準優勝。

バレー部 東京都私立高等学校バレーボール大会で、4回戦まで進出、結局東洋高校に破れたがベスト16位となった。

野球部 夏の大会は期待されたが打撃ふるわず惜敗、秋の新人戦も3回戦で投手陣がおさえきれず敗れた。

陸上競技部 同部は最近、部員がふえ、結果として部員の間にライバル意識がめばえ、好成績をあげるようになった。大田区大会では常時上位入賞、都大会での飛躍が期待される。

吹奏楽部 本校の顔といわれる同部の活躍はめざましく、この秋の東京都大会、関東大会を征して、来年の全国大会でのグランプリ獲得が当面の目標。ことしの夏はアメリカダラスで行われたワールドチャンピオン大会に参加し、みごと国際大会で5位に入賞した。



▲文化祭で第15期・第16期の卒業生が校長と会談

回想

元教職員 細江和四郎



大正15年12月に山形県上ノ山に生まれ、もの心がついた頃には、蒲田の南六郷(辻)に住んで居た。その当時の六郷周辺は、東京の郊外といった方がよいほど、タンポや畑、果樹園が広がっていた。タンポと言っても水稻を作るのではなく、いわゆる湿地帯の様な雑草や蒲が密生している状態で、蛇や蛙等の爬虫類やトンボ、セミ、バッタ等昆虫類が、野原を歩けば、どこでも飛出してくる、六郷川(多摩川の下流)の河原は蘆が一面に生えていて、中に入ると方向が分らなくなる程、その中には小さな川が無数に縦横に流れていて、小魚やカニがいっぱい居た。今ではもう見られなくなった「トビハゼ」や「川ガニ(モクソウガニと呼んでいて美味なカニだった)」が居た。勿論ウナギやカレイ、セイゴも多く、最も多く棲息して居たのはマルタと呼ばれる魚、大きいものは50cm以上にもなり、稚魚は子供達の釣りの対象魚であった。この魚も今は殆んど見当らない、絶滅してしまったのだろうか、戦前、戦中は今では考えられない様な長閑なそして素朴な感じの町でした。このようなところで育った私は、学校から帰ると、兄や友達と六郷川に遊びに出掛けた、水溜りで魚を追いかけたり、魚釣りに明け暮れて居たが、昭和13年の2学期から中学校(旧制)進学受験に対する補習授業が始まった。今と違って学習塾など全く無く、家庭教師は若干あったが、これとて家庭の裕福なお坊ちゃんがやれる事、私達は学校で放課後、先生に指導していただいてやるだけ、模擬問題等は全部先生が作問し印刷して下さったものばかり、現在のようにワープロやテキストがあるわけでもないし、全部ガリ版印刷だったから、先生のご苦労も大変なものだったと感謝しております。ちなみに今でもその当時の恩師とは文通を続けています。補習の甲斐あって東京実業学校第一商業部に合格、昭和14年4月に入学する事が出来ました。既に日支事変が始まっていたために中学に入ると、もう軍事色が濃くゲートルを巻いて登校、校門に入る時は上級生が引卒して歩調をとって入ったものでした。朝礼は毎日行われ、各学年クラス別に並び、全校生の整列は見事なものでした。私語は一切無く、校長、配属将校の訓辞を聞いて一日の学校生活が始まる、1年生2年生の教練は宮野先生と奈良橋先生、上級生になると配属将校

(三科教官)の指導で、それは厳しいものでした。

何時の時代でも学校生活の楽しみは修学旅行とカ体育祭、文化祭といった行事であろう、私達1年生の修学旅行は1泊2日での昇仙峡への旅行であった。秋の紅葉とそして子供心に魅力だったのは水晶探しであった、後で考えて見れば、言われている程素人に見つかる分けがある筈がないが、喜々として冷たい清流の中に入り、一生懸命に探したものだ。ごく小さな水晶が何人かの手で見つかったが、売り物になる代物ではなかった。

その晩は旅館に泊るものと思っていたのだが、それは誤算だった、数人に分かれて農家に分宿する事になっていた(今ならさしづめ民宿と言うところか)夕食はまずまずだったが、床について枕投げ等は出来ず静かなもの山登りと冷たい水につかったせいもあり皆早々と寝てしまった。ここまでなら何の変哲もない普通の修学旅行であるが、私にとっては一生忘れる事の出来ない事が朝食直後に起ったのである。

今も昔も旅館等の朝食にはつきものの玉子、私はその玉子を生で飲むのが好物であったので、食後大事に持って外に出た、皆と一緒に散歩がてら玉子を飲もうと思つて、先の方を細い棒で突つて穴を開けて口にした時、少々変な臭いがするなあ一と思つたが、躊躇する事なく吸い込んだ途端、異臭と共に口の中に細い棒の様なものを感じた。思わず吐き出してしまったが、口の中には異臭が残り、玉子をと見れば、割った穴からヒヨコの足が一本出ているではないか、今の玉子と違って、農家の事とて庭に放し飼いにして居る鶏の玉子なので有精卵だった為孵化直前の物だったのであろう。後の事は皆様のご想像にお任せ致します。それ以来私は玉子は必ず器に割って入れてから食べる様にしています。

2年生は伊豆大島への旅行と言う事でしたが戦局が激しくなり、修学旅行は中止となり、変つて富士の裾野にある陸軍の演習場である板妻兵舎と滝ヶ原兵舎に教練実習の形での旅行となる。旧国鉄御殿場線の御殿場駅から行軍で丘舎まで、道のりはどの位あったか記憶に無いが相当長い道のりであったと思う、入学当時私はラッパ部(軍隊ラッパ)に入部していたので、この長い登り道を級友と同じ荷物を背負い、行進ラッパを吹きながらの行軍は実に苦しかった。昼は教練と山中湖までの行軍、夜は軍歌演習と厳しい行事の一つだった。

戦局も益々激化し卒業は繰り上げとなつて昭和18年12月、5年生の2学期の終了時点で卒業となる。商業科を出ても就職先は精密機械関係の現場で働く様になったが若い者は毎日志願兵として出征して行くのを見て、私も少年飛行兵を志願、昭和19年6月に青森県八戸航空隊に入隊した。昭和20年3月東京大空襲の日、富山県の伏木港か

ら渡瀬、同年8月終戦と共に復員し、旧国鉄に就職しましたが、昭和27年に母校東実にて教員として転職、以来35年、この教員生活の間にも色々と思い出がいっぱいありますが紙面の関係でここでは割愛いたします。退職後は好きな魚釣りに専念している現在です。



「全国同窓会協議会」

関東地区同窓会サミット開かる!!

平成3年10月26日“同窓会の活性化”の課題で、明治記念館梅の間で開かれました。

当会では、村松会長、本田副会長、米田書記、井上担当が出席しました。

各校の同窓会活動報告がなされましたが、その内活潑なのは都立忍岡高校（浅草）であり、当校は2番目に定期的な活躍が実行されている様に思われました。

サミットではいの一に東実に白矢が立ち村松会長から年間行事などを説明賜采をいただきました。

他同窓会ではやはり会費の徴集難、会合の出席の悪さなど難問をかかえている様である。

出席同窓高校は次の23校でありました。（井上・記）

東京都立足立西高校桜水会

埼玉県立岩槻高校同窓会

東京都立上野高校東叡会

鹿児島女子高校同窓会

東京都立葛飾野高校同窓会

東京都立小松川高校松葉会

札幌啓成高校同窓会

東京都立忍岡高校蚕溪会

十文字学園さくら会

埼玉県立杉戸農業高校同窓会

東京都立墨田川高校墨水会

東京都立竹台高校さつき会

立川女子高校松葉会

調布学園精進同窓会

東京高校同窓会

東京実業高校同窓会

東京都立豊島高校柏豊会

日本橋女学館同窓会

東京都立高校東志会

船橋高校同窓会

東京都立向丘高校やよい会

東京都立目黒高校同窓会

横浜女子商業羽杖会

（五十音順）



すこやかに老いるために 40才から準備を!

元教職員 大平 与 篠



過般、この会報に、この種の会報は、ややもすると無い記事の多い、過去型タイプになりやすいので、つとめて将来への希望や示唆に富んだもの、また実践中のものなど未来志向型にして頂きたいと書いた。ところが編集者より、「それならば」と早速にご指名がきて、またまた引受けする羽目になった。

私の座右銘の一つに呂新吾の、「老いは嘆くに足らず、嘆くべきは老いて空しく生きることなり」というのがある。

十年程前のことになって恐縮ですが、鎌倉の円覚寺での夏期講座に参加したことがありました。(毎年7月20日頃から5日間、8時より12時位までなので、都合のつく方は参加してみして下さい。一流講師の話が聞けます)。その時、医事評論家の水野肇氏が、「すこやかに老いる」というテーマで講演されました。今回はこの水野氏のお話を参考に、老後の健康問題について考えてみたいと思います。

「空しく生きる」の反対は、「充実して生きる」ことで、その為には老人にとっての3K、即ち、健康・経済・孤独の克服が大切といわれています。そのどれをとっても深刻な問題を抱えている訳ですが、今や世界一の長寿国となった日本であることは皆さま御存知の通りです。しかしながら、健康度ということになると問題があるらしい。水野氏の調査によると、60才以上で、私は元気だと思っている人を集めて精密検査をしてみると、その70%に成人病が見付かり、更に65才以上になると、何と90%の人に病気が発見されるという。残りの30%ないし10%の、名実ともに健康に属している人々も、多分に遺伝的要素が強く影響しており、幸運に恵まれた人達なのである。

こういうとやや悲観的になるかも知れないが、強力な味方も出現しているのだ。それはいうまでもなく医学の進歩である。これからの死因のトップは、ガン、血管系の病気(脳や心臓系)、次が事故とのことである。事故はともかくとして、ガンも血管系の病気も一朝一夕にかかるものではなく、10年位かかって徐々に進行していつてある時爆発するものである。これら二大病が自覚症状に乏しく、気付いたときには手遅れになりがちだという

ことを念頭におくならば、自然に早期発見、予防医学へと関心は移ってくる。特に医療技術の進歩は著しく、人間工学、電子工学などの導入により、早期発見に貢献してくれるようになった。例えば、ガンの中でも最も多い胃ガンの場合、1期で発見されさえすれば、95%が全快するというし、脳外科も早期に発見すれば、クモ膜下出血や、脳こうそくを起こす前に治療が可能である。また健康診断の際血液検査を受ければ、糖尿病、肝臓病など20数項目の病気が発見出来るほどだという。

本校の卒業生も2万余となり、その半数近くが40才を越えてきた現状からみて、健康面には常に留意して頂き度いものである。予防医学の面からも日常生活の上で注意すべきことは幾つかある。水野氏は六項目をあげておられる。

- (1) 1日3食、できるだけ一定の時間に食べること。
- (2) 朝食を抜かないこと。
- (3) 平均体重を保つよう心がけること。
- (4) タバコを吸わないこと。
- (5) 酒は二合以内、ビールならば二本以内とし、前夜オーバーしたら翌日は控えるようにすること。
- (6) 1日4km位の歩行が、週2回汗をかくくらいスポーツをすること。

以上の6項目は何も目新しいことではなく、昔から言われてきたことばかりである。要は無関心で過ごすか、気配りするかで大差が出てくると水野氏は説いておられる。そして更に付け加えるならば、ストレスも万病の元であることがわかってきた。風邪は万病の元と言われるように、ストレスにも同様の作用があることが医学的に明確になっている。人それぞれ自分に合った方法でストレスを解消する工夫が必要とのことである。

寿命はのびても「すこやかに老いる」のは簡単ではないことがわかる。そこで、40才位から早期発見の為に年1回の健康診断を受け、さらに予防医学に努めて、豊かに老後に備えて頂きたいというのが私の願いである。

酒類の事なら何でも相談承ります

酒の 旭 屋

瀬戸 秀彦

(昭34. 3. 卒)

東京都大田区西蒲田 7-49-10

☎ (03)37 3 1-7 1 1 1 (代)

思うがままに

教職員 住吉恒雄



昔から故事、ことわざの中には人生の哲理にちなんだ名文が沢山ある。その代表的なものの一つに、中国東晋・南朝宗の文人で陶淵明（またの名を陶潜）の詩、雑詩の中に、「歲月人を待たず」～という有名な文章がある。日本人の大半が、なんらかの時と場所において、人は一度や二度はこの名文を口にしたと思う。これは、年月の流れは非常に速くて、個々人のすべてについて、いちいち待ってくれないという意味である。そのためには、現在、つまり、今という時をより大切にして、悔のないよう、せいぜい努力せよという名言である。また、この文の逆は、「時は人を待たず」ともいえる。

その原文は「時に及んで當に勸励すべし、歲月は人を待たず」～と陶潜はうたっている。

一方、英文でいうならば、Time and tide wait for no man. つまり「時と季節は人を待たない」であり、類句として、「盛年重ねて来らず」そのものである。

年あけて、1992年（平成4年）あと9年ほどで、世代は21世紀になる。学生諸君も、その時期には、社会の中堅層になるわけだから、冒頭の文章の内容を十二分に把握し、そのときどき、つまり、現在の青春時代を有効に過し、悔のない人生を送ることに専念すべきだという、教訓でもある。それが若人の使命にもつながる。

いつの時代も、大人から見た学生諸君に対する気質はといえば、きまって最近の学生は常識がない、礼儀をしない、自己中心主義だ～やれ、身勝手そのものだ～などと言われて評価されてきた。その評価、見方は、とくに、第二次大戦以前、戦時中、戦後とでは比較にならないほどのさま変わりであろう。儀や、礼節を重じる日本国民の過去の民族性からみれば、学生にあらず、国民全体が気質的にも、ものの見方、考え方が360°の変貌があったにちがいない。この変貌の責任は、学生にあらず、われわれ大人側の責任の重大性と自負し、反省すべきと思う。それが、たまたま学生に対してのみ風当たりが、シビアに感じるのかもしれない。それだけ将来に期待をかける大人側の声かもしれない。

やがてくる4人ないしは5人に1人の割合に老人が増え、文字通り、高齢化社会になる日本国にとって、せめて、明日を担う、学生諸君に対する期待度は大きいと思

う。それだけに、大人側からの注文も過大である。

対外的には、ソヴェト連邦として長年つづいた、共産圏も崩壊した。他人ごとと捨てておけない。うわついた気分でしたら自国もあぶない。そのためにも、経済大国として、先進国のメンバーから落後しないためにも、学生諸君の責任は大きい。原点に戻って、基礎的な常識を蓄わえ、社会のリーダーになってほしい。

堅実な信念を持って、全てに対処することが、信頼できるリーダーをつくる条件である。しっかりしたリーダーがいれば、自ずから良いスタッフに恵まれる。

そこには、家庭的不和も、学校や社会におきているイジメも、登校、出勤拒否もおこらない。

日本経済もいつまでも上昇気流にのるとは思わない。日本人全体が物質的にはリッチになりきっているが、精神面には、マナーのしらない乏しい人々が増えてきている。文明の発展によって、日進月歩、われわれの生活水準はあがってきたが、その分一般的なベースの欠如によって、法律にふれる不祥事が、社会的に地位のある人までが、国民の批判を受ける結果にある。甚だ悲しいことだ。少なくとも、本校で学んだ諸君だけでも、社会に貢献できる、使える人材になってほしい。

企業や産業界は、これからが冬の時期というが、不景気に直面する動向にきている。やれ、3Kはいやだ、フリーターで生活をしようとする時期は、すぎ去った。

いつまでも甘い夢を追っている、身の破滅だ。自分との戦いのためにも、より多くのライセンスを取得し、知識という財産を築くことにある。何をどうするかということに関しては、自分自身を発掘することにある。

老若男女をとわず、つぎの5つの心だけを忘れてはならないと思う。一つの素直な心、二つ反省な心、三つ謙虚な心、四つ奉仕の心、五つ感謝の心～これらの心は人間誰れでもが潜在的に持っている。これらの心を常日頃から、時と場所において、行動すれば、必要以上の能力を発揮することができると思う。

これが真の東実精神である教育の原点ともいえる。～学び、試みる、学べ～ということだそう。スローガンの神髄の意味を理解できると思う。本校のマスコットであるフエニックスのように、社会に雄々しく羽ばたくことを望んでいる。



新入生に送る言葉

—明るく楽しい東実—

生徒会長 普通科2年B組

長瀬 隆史



生徒会活動と今年度の生徒会年間行事を紹介します。

4月入学式の翌日に行う“新入生歓迎会”では、主にクラブ紹介、生徒会組織、年間行事などについての説明をします。今年はゲームなどを盛り込みパーティー形式で行ったので、新入生に明るく楽しい東実というのがわかってもらい、今後の学校生活に希望をもってもらえたと思います。4月の連休を利用して山中湖の学寮で行うリーダー研修会では、各クラスのリーダーを1名ずつ集め、生徒会自治活動を活発化させ、ホームルームでの議長の仕方やクラスのリーダーのありがたなどについて話し合い、各学年、科、クラスが相互に協力し合えるような体制を作るためのリーダーとしての自覚を持ってもらい、一致協力し活動する力を養います。

今年は会議だけでなく、キャンドルサービスやミニ文化祭などを試み、参加者からも「楽しかった。来てよかった。」などの感想が聞かれ、後日行われた東実祭でもかなりの効果を上げました。

5月には生徒会活動方針案、予算案や生徒からの学校への要望についての“生徒総会”が行われ、その後、生徒総会で議決された学校への要望について、校長先生をはじめとする先生方と話し合いをしたり、交渉をする“先生と生徒の懇談会”が行われました。

学校への要望について先生方と話し合うことによつてかなりの生徒からの要望が取り入れられるので、このような場をさらに増やしたいと思います。

10月には大井陸上競技場で行う“体育祭”では、「'91体育祭・完全燃焼」と題し生徒が中心となり各生徒会、競技、応援で盛り上がりを見せました。

11月には、生徒会としても一年間の大きな行事である東実祭が行われました。文化祭実行委員が中心となり、4月からの活動の成果があり、予想以上の各イベントの盛り上がりを見せ、来客者も過去最高の約5,000人となり大成功に終わりました。

東実祭の後の生徒会役員選挙では、予想以上の立候補者が出て激戦となり、生徒会立候補者の意欲が感じられました。

年度末の3月には、3年間クラブ活動を続けて来た3年生を対象とした3年生を送る会が行われます。

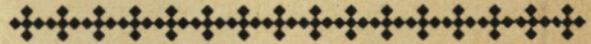
毎年各賞の受賞やいくつかのクラブに余興をやってもらい、3年生に楽しんでもらっています。

以上のことが主な生徒会の行事なわけですが、この他に生徒会では、年3回生徒会の方針が各行事についての“合宿”を行ったり、他校との情報交換を行う“交流会”学校のより一層の美化を進める“校内美化コンクール”地域との交流を深めようと学校、蒲田駅周辺を清掃する“グリーンキャンペーン”生徒会活動を円滑に行うために学年ごとに設置した“学年会”などの活動をしています。

本年度の方針は本校、創立70周年ということもあり、各生徒会行事を盛り上げ、成功を治めることと、各生徒会活動を充実させていくこと。さらに生徒会と生徒が学年会、生徒会通信“菩提樹”やポスターなどを通じ、密着した関係にして生徒会活動を理解して意識を高めてもらいたいと思います。

以上の方針が一歩でも二歩でも近づけるよう頑張りますので、御協力、支援をよろしくお願いします。

今後の生徒会活動に御期待下さい。

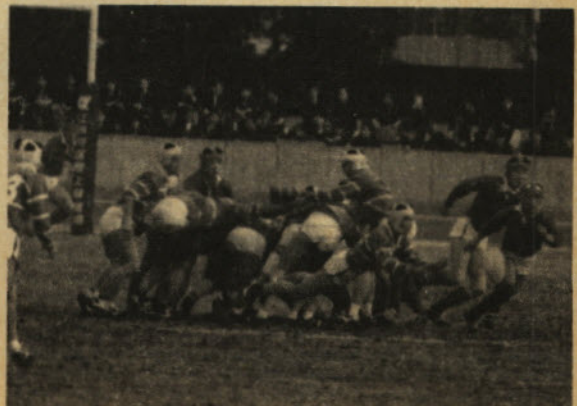


残念！花園へあと一步

東京高校ラグビー部健闘 準優勝

去る11月17日(日)江戸川陸上競技場において、第71回全国高等学校ラグビーフットボール大会東京都予選第二地区決勝が行われた。

テレビで放映されごらんになった方も多いと思います。が、兄弟校ラグビー部は、過去5回全国制覇を成し遂げた名門目黒高校を相手に健闘したが、惜しくも18対9で破れた。しかし、創部以来12年目で決勝に進出、ラグビーの東京高校の名を天下に示して、堂々準優勝の座を勝ちとったことは、兄弟校として誠に喜ばしいことで、今後の健闘を希望して栄誉をたたえたい。



禍い転じて福祉となる

第17期卒業生

佐々木 光 雄



私は戦後、それまで全く予想もしていなかった教員となり、定年まで38年間頑張り現在は県教育委員会の心身障害児就学指導委員会委員長や障害者福祉団体の役員として東奔西走している。

昨年は日米開戦50周年に当り、両国はそれぞれの立場で、これからの日米関係について論議なされているが、開戦当時の世界情勢や国民生活のことを振り返って見ると全く夢のようである。

私たち17期生は、開戦時5年生で、私は卒業後、家業の米屋を手伝う予定であったが米穀の国家統制により食糧営団に統合されたので進路方針を変え、明治大学に進学した。

戦争は益々苛烈さを増し、一億総決戦の臨戦体制となった。私は海軍飛行専修予備学生を志願し、卒業式の前日、土浦海軍航空隊に入隊した。偶然にもそこで同窓会長の村松濱代君と巡り合い心強く感じた。学生隊は、速成海軍士官養成のため、教育・訓練の課程は言語に絶するハードのものであったが、「5分前の精神」とか「スマートにやれ」等今までの学校では学べなかった事柄を教えこまれたもので内向的で消極的な性格な私にとっては得難いものであったし、戦後、教員になろうとした大きな動機づけにもなったと思っている。

終戦後、生き延びて復員し親たちの疎開先である茨城最北の山中に落着いた。

当時は食糧事情最悪のため東京へ戻れば、己おを得ず田舎に留まって商業科の教師となり第二の人生が始った。

生活のための「でもしか」先生になり、知る人誰もない全く未知の職場で孤軍奮闘したが「渡る世間に鬼はなし」の通り、良き先輩、同僚、多くの生徒と地域の人人と出会い、いつの間にか本職となり、貴重な経験と楽しい思い出を残すことができた。

米屋のあと継ぎになるつもりで東実に入學したが、戦争のため進路方針の紆余曲折はあったが、行く先々で良き友と出会い、新しき体験を身につけたことが、戦後の教員生活に全部役立ってきたことを感謝している。

「人間万事塞翁が馬」という諺があるが、人間逆境にある時こそ次の飛躍へのエネルギーとなるのではないだろうか。

戦争が私の進路を大きく変えたが、終戦が、教員という聖職をもたらし、その関係で退職後も教育福祉の仕事に携さわれること、「禍い転じて福祉」となっていることを最高の幸せと感謝している。

最後になったが、在職中、同窓の牧野勝君（元東京少年鑑別所長）に何回となく生徒指導のことをご指導いただきありがたかった。

母校の益々のご発展と後輩諸氏のご活躍を期待申し上げます。

新幹事 (30名) 誕生

本年（平成4年3月）卒業予定 697 名15クラス、規通り各科各組2名づつの新幹事が下記の通り誕生しましたので紹介します。今後同窓会の幹となってご協力下さる事を期待します。

記

- 機械科 A 佐々木 敏 志 ・ 山 崎 信 貴
 - B 石 川 茂 ・ 村 上 誠 二
 - C 阿 部 哲 夫 ・ 杉 山 義 幸
 - D 下 平 学 栄 ・ 渡 辺 薫
 - E 高 橋 誠 一 ・ 丸 山 祥 一
 - 電気科 A 紺 野 秀 明 ・ 吉 成 勝 彦
 - B 内 田 雄 大 ・ 笈 川 俊 之
 - 商業科 A 鈴 木 利 行 ・ 高 橋 利 之
 - B 金 沢 延 寿 ・ 原 和 男
 - C 花 澤 一 郎 ・ 渡 辺 健 吉
 - D 高 瀬 暢 彦 ・ 牧 野 幸 郎
 - E 岩 本 誠 ・ 永 田 孝 一
 - F 田 中 貴 之 ・ 苗 山 篤 史
 - 普通科 A 鹿 島 郁 人 ・ 須 山 武 美
 - B 山 岸 浩 二 ・ 渡 部 義 明
- 以上 30名

東京実業同窓会会員総数

平成4年4月現在予定 (): 女子

会 員 総 数		商業系	工業系	普通系
24,611 (2,522)		12,056 (2,612)	12,018 (0)	537
内	昼 間 部(同窓会) (大. 15~平. 4)	20,385 (2,382)	9,701 (2,382)	10,147
	夜 間 部(望窓会) (昭. 4~昭. 52)	3,586 (228)	2,223 (228)	1,363
訳	専門学校(五葉会) (昭. 35~昭. 48)	640 (2)	132 (2)	508 (0)

◎平成4年3月卒業予定数 697名
(商業系: 274 工業系(機械)231+〈電気〉115=346 普通系: 77)

第16期同窓会賑やかに——

16名が鶴見翠華楼で

昭和16年卒、第16期の同期会が、6月15日JR鶴見駅西口前の中華料理店「翠華楼」同勢16名が集まった。みんなはじめ固い挨拶をしている。

今年は、日・米開戦から50年である。あの頃交渉が進展せず、雲ゆきが暗くて気の重い報道を覚えている。

我々のクラスは2組あったのに、戦死か、戦災でか、いろいろだろうが、住所不明が多い。いま、病んでいる人もいようが、どうぞ頑張ってください。

さて、会の方は6時開始、一通りのセレモニーがあつて、乾杯、話題は将来のごとより来ない人の安否が多い。みんなで堀り起しを提言して、同意しあう。昨年参加して、今年欠の人もいるが、元気なんだろう、返信には近況を書いて欲しい。心配なもんだ。返事のない人もいる困りもんだ。

なにしろ、先きが無い者同志年一回ぐらい、合いましよう。

2つのテーブルに8人ずつとなる。話しに花が咲いている。この人数は歓談には最適だ。

2時間、みんな夢中で話しこんでいる。

話し声が段々大きくなっていく。言葉遣いは昔に戻っているが、振舞いはゆつくり、顔を見ると、禿、とか白髪だ。髪の毛の黒目のものはおだてられている。

幹事は忙がしく注ぎに廻る。しかしその段階で気がつくのは、随分飲み量が減っていることである。料理も余っている。私どもの習いで勿体ないの感はあるが、会

食の場合は減らす訳にはゆかないので、中級の注文にしている。

給仕さんは次の皿を持って来てウロウロする。話しに夢中なので食べられないのか？

それでも小皿にとつてくれると無くなる。

みんな胃は丈夫なんだ、安心だ。

こうなると2時間は早い。会計は忙しい、計算返金の用意、決算報告、余りを返金、2,500円もバックした。来年に繰越しはしない、なでか？ 来年のことはわからない。

残りをもらった嬉しさが、ラストの手締めは威勢がいい。

末筆だがご当所の同窓山本さんには大変お世話になった。みんなにご披露はしたがここにまとめてお礼を申し上げます。次回は平成4年懐しの蒲田で6月20日の予定。

(青木・記)



▲平成3年6月15日 於・鶴見「翠華楼」

東実 18 会

18 期 卒

森 哲太郎

9月21日(土)、横浜中華街「華勝楼」三科六郎教官の御出席を頂き、総勢23名が本年度の一八会、卒業以来48年目の会合です。一夜を近況報告に、昔話しに、花を咲かせ楽しい集いであります。来年は同期の桜井君の住む松島での開催、そこで平成5年には愈々卒業50回の祝いを盛大に全員を集めようと計画もはづんでいる。

卒業時180人の仲間も、現在は80名がお互い連絡をとり合い、幾つかのグループで日々親交を深めている。

それぞれが色々な道を歩み、苦楽を経験して来たが、小学校よりも、大学よりも、東実の仲間が一番深い親しみを感じる。これは全員の一致する意見、年間色々な会

合のある中で、何よりも一八会の集いが待ち遠しい楽しい会合である。何時までも、未永くこの一八会を続けて行く事も我々の生き甲斐になって来た様である。



気力

17期卒業生 松永千里



最近、少々気になることがある。世界情勢の不安定からくるのが、希望のない人生を送る人が多いのが、無気力な人々が目につくようになったということである。

私が読んだ本にアメリカの心理学者である、セーリックマンの実験のことが書いてあった。約150頭のイヌを使用して、行動観察をした「無力感の獲得」という論文であり、それによると当初約3分の2のイヌは、ひどく無気力であった。セーリックマンは無気力なイヌの治療法として「強制」が必要であると考え、文字どおり彼らの首に綱をつけて引っぱってやらせると、25回から200回も強制的に実施することによって無気力から完全に立ち直ることができたと報告している。

人間はどうであろうか。この心理学者が老人のグループに対してさまざまな選択をさせ、かつそれを奨励すること、自分のことだけでなく、簡単にできる植物などの世話を責任をもってさせること、などの変化を導入すると、老人がより生き生きとし、より活発になり、そしてより幸福そうに感じられたと発表している。

さらに興味深いのは、こういった変化の導入をした老人のグループの場合、そうでない老人のグループにくらべて、18カ月以内での死亡率がおよそ半分に低下したという事実も記されている。セーリックマンも指摘しているように、極端な無気力は死へとさえ導きかねないのである。

遠い海のむこうの国のレポートであるが我々も大いに考えなければならないことである。日常生活が単調であるから、無意識のうちに意欲のない無気力な生き方をしているのではないだろうか。自分の仕事があり、何かの役にたっているという喜びを持つこと（持とうとしない人にはまわりが持たせるように力をかす）そんな心と心のつながりが必要ではないだろうから動物や老人だけでなく若者においては尚更何ごとにも気力を持つこと、持たせることが大切だと思うのである。最近小生も物忘れが多くなってきたので、その防止策もかねて、毎日、少しでも読書をしようと心掛けている。私の場合、日々おとろえて行く知識をとりもどすには大好きな読書以外には考えられないと信じて、楽しみながら大いに仕事にも生活にも意欲と気力をもとうと勉めているこの頃である。

人間すべからく無気力を脱却する気力を持つとうではないか。

29回クラス会盛会に終る

17・12C卒業生

須藤 福次郎

時の流れは早いもの、平成3年10月19日は土曜日だった。この日を佳き日として私達15会のクラス会を西蒲田ときわに於て開催しました。20名を越す出席ということで、盛会に終了することができました。数えて29回、この間に於ける延出席人員535名ということで今日に至っておりますが、反面一抹の寂しさを感じる今日この頃でございます。寄る年波とでも申しましょうか私達クラス会は5年周期位に名簿の書換をしておりますので、今回実施してみましたところ入院中とか静養中とかで不調を訴えるコメントが多かったこととでございます。末長く続けるにはお互いが健康一途に歩むことが大切であることを痛感いたしました次第でございます。幹事役は持ち廻りになっておりますが来年は卒業50年、クラス会30回という記念すべき年に当たりますことを申し添えて次期幹事に申し送りました。大いに期待いたします。



▲ 於ときわ

商品券がカードになった
あのひとに贈りたい「三越ゆめカード」



MITSUKOSHI
日本橋 TEL/03-3241-3311(大代表)

女子生徒がいない チョツピリ淋しい母校

第34期女子商業科卒

加藤悦子

書き物をする機会がめつきり少なくなった昨今、原稿の依頼を安請け合いをしてしまった私は、内心“シマッタ”というのが正直な心境です。

「光陰矢の如し」卒業して32年が過ぎた今、あの頃の思い出を少々たどってみる事にしました。もともと男子校だった東実に女子商業科が出来て私は三期目の卒業生です。一期18名、二期37名、三期61名と、それぞれークラスでした。61名ークラスは今思うと多く感じますが、当時は特に気にならなかったように記憶しています。

故上野幸一校長も、女子ガークラスということで、一人ひとりの名前を担任同様憶えて下さり、とても親しみがあり、言い換えれば家族的な雰囲気、と言っても過言ではありません。登校拒否なんてなかったし、学校イコール楽しい所だったので。

女子の校舎は現在の体育館側にあり、平屋建てでした。担任の恩師瀧直治先生は温厚なお人柄で、現在も83歳を過ぎて増々お元気でいらっしゃいます。恒例の年一回行なわれるクラス会には毎回半数以上の出席者で和気あいあいとした雰囲気を先生はとても楽しみにして下さり、次回からは年2回にしてはどうかという嬉しい声が聞かれ、目下検討中といった所です。忘れられないのよ、女子商業科長だった故粕谷光徹先生の歴史の授業です。歴史上の人物が恰も親友か隣人のようでリアルな話し方は、ただただ感心していた私です。修学旅行は関西、四国方面で奈良公園、薬師寺、三月堂、広島原爆資料館、厳島神社、山口錦帯橋、四国金毘羅宮、栗林公園、鳴門海峡を渡って淡路島といった所で、今考えてみると当時としては、リッチだったと思います。近年は同窓会の催し、特に新年会、懇親会旅行等になるべく都合をつけて参加しています。同窓会の席では、まだ男子校だった頃の大先輩から時々「どうして同窓会の席に御婦人がいらっしやるのですか?」と聞かれる事もあります。

同窓会懇親会旅行も参加させて頂いております。

以前は山中湖の学寮を利用していましたが、ここ2、3年は、熱海、湯河原といった近場の温泉一泊が続いています。参加者の年齢層が70才代~30才代位と幅広いので話題も多種多様です。時には羽目を外して涙が出る程爆笑することもあり、私の楽しみのひとつでもあります。

卒業して暫くは、時々懐しくて学校へよく遊びに行っ

たりしていましたが、最近に行くことが少なくなりました。それでも偶に顔を出してみると、すれ違うのは男子生徒ばかりで、女子のいない事実はちょっぴり淋しく思うのは私だけでしょうか。

でも母校というのは何年経っても、いや歳月が流れば流れる程青春の思い出として、いつまでも心に残ることでしょう。

増々東実の発展を願わずにはいられません。



▲平成3年11月22日 台北市中正記念堂にて

第26期卒(昭和26年3月卒)

40年ぶりの級会

箕輪弘数

我々が東実中学校に入学したのは昭和23年新潟鉄工所の焼跡の運動場のない仮校舎、中学3年には待望の校舎が建てられましたが、それもバラック校舎……戦後の教育過程をこの様な環境で過した我々は勉強とそれ以上に強い団結の精神を学びとることが出来ました。

今回11月30日母校の隣にある割烹“まるい”に於いて40年ぶりに級会を催すにあたり大平礼五郎先生、旧姓斉藤素子先生(現在中島素子)をお招きしました。また幹事横山清一、江藤広司両君の努力により級58名中半数に近い24名を一堂に会せたのは正に奇跡と言っても過言ではないかと思えます。

会は昔の生徒に戻って斉藤先生から出席をとってもらいなつかしく思いました。また大平先生は故・上野幸一校長、故・白根睦君の冥福を祈って全員1分間の黙禱を捧げた後、意義ある老後の過ごし方を御指導して頂きました。皆一時タイムマシンによって昔の生徒に戻り歓談、雑談、懇談に花を咲かせ和やかなうちに来年の同窓新年会の再会を約し散会致しました。(箕輪・記)

図書室だより

教職員 北井 邦寿



昭和51年に図書室を担当した。場所は御園中学校側に建てられていた旧1号館である。元理科室の教員室と実験室を、それぞれ蔵書室と閲覧室にあてた。その後、本館4階の現在の図書室に移ったが、機能として不十分であった。閲覧室の机は、会議用のもの。着席しても隣との距離が近すぎ、肘がつくくらいの落ち着きのないものであった。閲覧は閉架式で、図書目録がなければ、見たいと思う本が見られなかった。

昭和61年、新1号館建設のため、図書室は一般の教室に代わり、蔵書は2年間、体育館の旧家庭科室にダンボールにつめられひっそり眠ることになった。永眠ではなく、復活のためのエネルギー充電である。

昭和62年9月、新館完成。プレハブで授業を受けていた生徒が、冷暖房完備の近代的な校舎に入った。当然、図書室も東実の中心になる新館の2階に設置されると思っていた。なぜなら、図書室は、生徒全体に簡単に気楽に、いつでも利用されなくてはならない価値をもつからである。副校長の上野先生から連絡を受けた無情な場所は、前回と同じ本館4階の角、環状8号線側であった。

当然のごとくに抗議した。校舎の角で図書室としての利用は大丈夫なのか、窓を開けると自動車の騒音がかなり入ってくるが、その対策は考えているのか、蔵書が多くなった場合の重量は、他の教室に影響はないのか、など様々なことであった。それから4年後の平成2年4月新図書室の完成、7月26日披露になるのである。

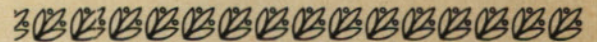
現状、前記の抗議は杞憂におわたたのである。学校側の図書室設置に対する考えは、狭くてもしつかりしたものをつくろうというのであった。蔵書室には手動で動く書架、閲覧室には自由に閲覧できる大書架、小書架。エアコンの設置。机は間仕切りが高くあり、木製の椅子で、落ち着いた清潔なイメージと“個人”が確保できる雰囲気ができあがった。生徒の利用は、昼休みは超満員。座席の整理券を発行したほどである。図書室ともっとも離れているクラスからも閲覧にくるのである。

いままでの図書室は、本が中心であった。これからもそうであろうと考えられがちだがそうではない。「図書室は情報の根幹」であらねばならない。情報過多の時代に、自分にとってもっとも必要な情報の収集ができる場所、提供される場所、多くの情報が集約されている場所、

それが図書室なのである。現在「三国志」など3種類の漫画が置いてある。大学紹介ビデオがあり、個人的に視られるテレビがある。これからは、図書室としての機能の変化である。

今後は、もちろん、蔵書の充実を図ることが第一であるが、図書の利用から考えると、様々な要求を満たすために情報収集の努力をしていかななくてはならない。

閲覧者は、生徒ばかりでなく、父方の方にも来室できるように図書室にしていかななくてはならないだろう。



同窓会・この一年

4月8日	平成3年度入学式	於：体育館
5月13日	常任幹事会	於：会議室
22日	会報編集委員会	於：会議室
6月12日	常任幹事会	於：会議室
22日	姉妹校(東京高校)同窓会総会	於：東京校
23日	平成3年度定期総会	於：大森東急イン
7月3日	名簿作成委員会	於：三松会長室
8月30日	常任幹事会	於：会議室
9月7日	第9回懇親旅行会 一泊二日	於：熱海山木旅館
8日		
20日	名簿作成委員会	於：会議室
10月2日	体育祭	於：大井競技場
26日	全国同窓会サミット	於：明治記念館
11月3日	文化祭	於：田校
26日	常任幹事会	於：会議室
12月13日	名簿作成委員会	於：会議室
1月18日	常任幹事会	於：会議室
25日	新年会	於：桜木町・ブリーズベイホテル
2月1日	「同窓会報」第3号発行	
3月3日	平成3年度卒業式	於：体育館

事務局に連絡の入った訃報

6C：佐 羽 勘 藏
 12C：阿 部 幸之助・小 宮 正八郎
 高 野 賢 三・島 田 英 男
 羽 田 喜一郎
 25M：東 俊 光
 44G：菅(青木)早 苗・加 藤 節 子
 53C：橋 本 紀 子
 ご冥福をお祈り申し上げます。

同窓会有志の

バカ騒ぎの旅行会

平成3年9月7～8日、恒例の同窓生有志の一泊懇親旅行が行われた。一行は先生を含め31名参加した。今回は熱海の山木旅館である。

その昔知る人ぞ知る、糸川べりから西へ約200mに位置し木造の2階建である。

これは、春頃の幹事会の席上、どこかないか? との発言に、松下さんが提言された旅館である。奇しくも小生の長年利用した旅館なので早速推奨したところ、直ちに決定された。

さてそれから会費もバカことだし、人員を多くということになり、ちよつぱり責任を負う格好で少々頭が痛かった。今までこれを実施されてきた会長はじめ諸幹事の熱意と努力と労苦の程が十分感じられた。

以後6月の総会にも紹介され、口こみでも大いに宣伝されていた。みなさんのそんな行動が本校同窓会の結束の良さをはつきりわからせる。

その日が来た。それぞれ東京・川崎・横浜駅から乗車車内でもう同窓会の気配が出はじめる。進行するにつれてバラバラの席が次第に集まってくる。缶ビール、ジュースが配られる。熱海はいつもより馬鹿に近い、もう降りる時間だ。

歩くもの、タクシーに乗るもの、それぞれ一点に集る。幹事の手配による部屋に着落く。

宴会は6時から、上座に副校長、会長、副会長あとは抽選で着座、隣りは誰でも知り合い同志、酔わないうちに、記念写真となる。料理は京都風、女将は京都の出である。

やがて、会長の挨拶、副校長のスピーチ、学校の現況等、母校の前途は洋々たる内容である。しかしラストに「同窓会の皆さんに負う所が多い」と結ばれた。続いて乾杯のかけ声で、大いに意気上がる乾杯であった。あとは隣り同志向きあい、また膳を移して対面の組もあり。ご想像の場面である。そのうちこの旅館との成り会いを女将さん共ども喋れとのこと、照れながらも、お女将さんより私の方がこの旅館に先きに来た、などを披露して、一条のなくさめにした。(当時はフライデーがなかったから良かったネーと誰かが言っている)

楽しいときは時間が早い、もう片付けが始まった。「皆さんバーの方へどうぞ」の追い立てで遂次引き上げることになる。

バーに行くと、みんな、カラオケやら、ビールやら、もうかなり出来上っている。勿論私も仲間入りだ。団体

貸切りの様子だが他の客もいる。その客に大変気を遣いながら騒ぐ、その辺は立派である。

疲れたか、時間のせいか、序々に人数が減る、嵐の一夜が過ぎたが、次の朝は本物の台風15号が来て、東海道線は不通だった。次の日の予定はすっかり狂った。朝食後、全員は各自の責任のもと解散した。(あとからきくと全員異常なし) (青木・記)



平成3年度定期総会開催さる

平成3年6月23日(日)午後4時半より、大森東急インにて65名の会員により定期総会の議題を審議しました。

会長、学校副校長の挨拶に始まり、事業・収支・監査報告など無事終了し、懇談会に入り楽しいうちに、厳粛な討議であった。

有志新年会顔合せ開かれる

平成3年1月26日(土)午後6時より、銀座ライオンにて約80名の参加を得て、新年の初顔合せを行った。

会長の新年挨拶に始まり、各期の紹介を済ませ楽しい団楽に永い夜を過ごした。



同窓会長(17期卒) (株)三松(村松濱代会長) TBSテレビ系で 全国に放映される

毎土曜日の朝7時30分から15分間、TBSテレビ系で全国に放映されている「ビジネス・ズームアップ」(中小企業庁提供)という番組を見ている同窓会員も多いことと思う。中小企業の特長である機動性・柔軟性を発揮し、各分野でダイナミックに活躍する会社を訪ね、トップにインタビューしてさまざまな角度からその企業と経営者にスポットを当て、独自の経営戦略や躍進の秘密などを深掘りし、その核心に迫る番組だが昨年10月5日(日)に当校同窓会長(株)三松(村松濱代会長)が選ばれ全国に放映されました。

株三松が選ばれたのは、同社の創業者である村松濱代会長が、国の中小企業対策の一環として昭和34年にできた「中小企業退職金共済制度」に設立当初から加入し、しかもその掛金が多く従業員の福祉増進に貢献したことから中小企業退職金共済事業団が推薦し、全国で紹介されることになったものである。

現在、この制度には37万の企業が加入しており、加入従業員数は260万人を数えている、その加入企業の代表として株三松がズームアップされたのは、常日頃村松会長が従業員を会社の「宝」として、働く安心感を与えようと努力してきた賜物と言えよう。

「居ごこち満点/家庭も平和/『働く安心』創造会社」のタイトルで放映された番組は、インタビュアーの舞台俳優・鈴木正幸さんがクルーを従えて玄関から入り、受付の女性社員に「トップの方は大変な名医(メッキ技術の指導)だと聞いたんですが……」と質問するシーンから始められた。

村松会長は知る人ぞ知る多趣味の人でゴルフ歴が35年でハンディは13同業組合のゴルフの会を昭和34年に創り毎月例会を30年間続け今月で368回の記録を作り、さらに弓道は東実時代にキャプテンを勤め5段のほか、なんと日本舞踊も名取りこそ訳があつて取つてはいないが30年の余り続けている名手。テレビの取材班もぬかりなく事前にそのことをキャッチ、受付の女性社員に案内されて会長室に入ると、村松会長は踊りの稽古の最中という設定から始まった。

この番組は榊井論平さんの軽妙なナレーションで進められ、同社の創業者である村松濱代会長が従業員に安心

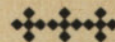
して働いて貰う環境づくりに腐心して種々の方策を考え、その一環として「中小企業退職金共済制度」に加入した経緯などが語られたほか、若者たちがいま会社に福利厚生面でどんな対策を求めているか街でインタビューした模様、同社を定年退職した元従業員の声などが盛り込まれ、最後に昨年5月に社長を引き継いだ村松泰直社長の抱負が紹介された。

〈テレビの中の一コマ〉

“安心して働ける”こととして具体的に打つ手は?

昭和34年に中小企業退職金共済制度ができて、これはいいと思い早速加入しました。上場企業でさえ倒産することがあり、まして我々中小企業ではその危険はもっと多い、万が一の時に従業員に退職金も払えないようでは皆さんに申し訳がないので、安心な国の制度で倒産しても退職金が直接従業員に払い込まれる中退金に加入したわけです。当時の掛金の最高額は1,000円でしたが、物価の上昇に従ってその後5回にわたり最高額が引き上げられ現在は26,000円になっております。入社歴によって掛金の差はあるができるだけ最高額に近い掛金を掛け、昭和53年に東京法人会が同じような制度を始めたので、加入して、これと合せて20才で入社した社員が60才の定年時に4,000万円以上の退職金を手にすることを目標にしています。

株三松は昭和22年に神田神保町で創業。現在蒲田に本社を置き、横浜市の恵比須に営業所と藤沢に営業所をもち、従業員数65名、資本金4,500万円、年商およそ70億円、各種表面処理薬品、資材、機械設備、メッキ液、工場排水の分析、酸類の小分け製造などを供給するめつき材料総合商社である。



写真右からインタビューに応じる村松泰直社長、村松濱代会長、インタビュアーの舞台俳優・鈴木正幸さん。

卒業生出会シリーズ③

東実を愛しているヤッ!!

「今日も蒸し熱かったナツ」やがて時計は、午後6時をさしていた。我輩はまだ仕事が残っているが、オペレーターは手を洗っていた。彼はいつも酒屋（東京高校卒・小学校同期）に立ち寄っては、清酒を一ぱいひっかけて帰るヤツであった。「ヨシッ、今日是我輩も行くか」と作業服のまま、30分で帰ろうと思いついて立ち飲みのカウンターでまだ明るい夕空を見ながらピーナッツを前歯でかんでいた。

気分は上々外もやや暗くなりかけていた。このまま現場にもどるのも味気ない、「ヨッシヤ蒲田でも行こうや!!」へーイタクシー!! と手を上げてドアに近寄った時である。横から私が先きよとばかり乗り込もうとした女がいた。年は24~5カ夜のご商売らしきと見受ける。我輩が先だとばかり年がいきもなく酒の勢でタクシーの中に、その女も私だと言いながら乗ってきた。じゃあしょうがない一緒に行こうとこた? と聞いたら蒲田の呑川だと言う。よしお前の店に行つてやろうじゃないかとばかり車の中は華やかになっていた。

我輩はカラオケが大嫌い、なんとその店の名は、「ハイハット」何がハイカ帽子か? と思いきや、そこに勤める女であった。ママを見たトタン、ヤッこれは平安朝にタイムトラベル?? 十二単を着せたらそのまま、こちからは紫式部になったつもり。いままでの酒が飛んでしまい、ポカンと口を空いたままであった。

カウンターの隅では同年輩（東大卒）の先生と称するヤッが毎晩来ているとばかり、新参者の我輩に声をかけてきた。

2~3回通う内に我輩の好きなマラカス・ボンゴ・ハ一モニカまで揃えて素人楽団となり朝の5時頃まで飲み明かしたものだ。

やがて一年はすぐたち、ワイフや娘達を連れだつて行くようになり親しい店となつて行った。

今夜も同窓会打合せも8時で終り、楽しい2次会が待っていた。いつもの調子でハイハットにより夜明けに車を呼んでもらい帰途につく。しまったッ、今日の議案の書類を学校の封筒ごと忘れてしまった。これが今回のシリーズの目である。（前書きが長が過ぎた——ここまで書かないと決論が簡単であるから）

この封筒を見て小踊りしたヤッがいた。今や同窓会常任幹事会になくはならぬ松下光夫である。（どうだ驚いたか?）

この31期の松下後輩は、この店より歩いて3分のところにあり、タバコを叩いているトテツもなく東実生を高く評価している驚き入った卒業生であった。

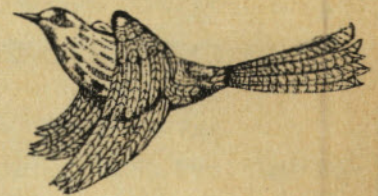
妻君は愛らしくとても愛想がよく彼の我儘を許している良妻と見受けた。

町の子供野球の監督をこなし、商売も手広く遊びと共に両天びんである。

他に24期の中山と言うヤツにも会っている。

その店はカラオケが無いため2年前ツブれてしまったそうだ。（ザマー見ろ）

第22期卒 井上 実



〔進路情況〕

平成3年度就職状況

経済的な好景気によって前年度につづいて、求人受理件数は大変な好調であった。（就職希望者の約13倍）

卒業総数 697 名の内就職決定者は約47%の割合ですが年々実礼会でいう希望の生徒は減少しています。本年度の主な内定先は次の通りです。（順不同）

〔機械科〕

JR東日本・ソニー厚木・横浜日産モーター・日本硝子・京浜急行・日本精工・石川島播磨・日産工機・日産自動車・東京モノレール・大日本印刷・フジカラーサービス・日本ゼオン・日本AMP・日航アビオニクス・羽田東急ホテル。

〔電気科〕

小松製作所・日本電気 真空硝子・日本電気フィールドサービス・東京電力・東急建設・リコー精器・ホテルグランドパレス・日本鋼管・フジゼロックス・日立エレベーター・テクノサービス・三菱電機（ビルテクノサービス）・東芝多摩川・富士通・プリジストン横浜工場・山田照明・寺岡精工・日産自動車・シャープエンジニアリング。

〔商業科〕

東急ストア・西友・品川信用組合・品川プリンスホテル・富士コカ・コーラ・明治屋・帝都高速度交通営団・第一ホテル・東京会館・富士銀行・オペレーション・日本発条・マルエツ・名糖・丸井・東急サービス・石丸電気・ミツミネ・JR東日本。

事務局だより

卒業生の皆様、益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。ついこの前誕生したこの同窓会報も早や第3号の発行となりました。これも皆様のお陰げと感謝しております。

この欄は、事務局よりのお知らせ、お願いと連絡事項等を記載致します。



●お知らせ

本年度の三大大事は下記の予定です。

- ①定期総会：日程 平成4年6月28日(日) 午後3時
会場 田校(小ホール又は食堂)
総会後の懇談会費 ￥3,000
- ②懇親旅行：日程 平成4年9月5日(土)～6日(日)
行先 湯本方面を計画しております
費用 ￥25,000位
- ③新年会：日程 平成5年1月23日(土)毎年最終土曜日ですが本年は月末になる為、1週間繰り上げ第4週目にします。
会場 会費共未定

上記のご案内は会員全員にはとても発送出来ません参加を希望される方はお早目にご連絡(電話も可)を事務局宛にください。詳細案内状を発送いたします。

●お願い

① 会員名簿作成について

同窓会では5年毎に会員名簿を作成する事に決めており、前回会員名簿を発行して5年目になります。丁度田校創立70周年に当たりその記念祭典行事に間に合せ

て発行する予定で名簿作成委員会は準備を進めております。クラス会の係の方、幹事の方々、お持ちの名簿(コピー)を一部事務局へお送り下さい。

② 終身会費の納入について

本会の活動をより活発にする為に終身会費の納入にご協力下さい。なお納入された方には同窓会報を送付させていただきます。

振込方法：全国郵便局

振込先：東京6-56316 東京実業高校 同窓会宛
振込金額：￥10,000-

③ 「同窓会報」投稿について

この会報は卒業生の機関紙です。卒業生どなたでも、いつでも、投稿できます。クラス会の模様、卒業生(先輩、同期、後輩)との出逢い、近況等お気軽にお書き下さい。また営業されている方は、広告欄をご利用下さい。同窓生同志！何らかの効果は期待できると思います。ご投稿はいつでも結構です。お急ぎでない原稿は適当に次号にお載せ致します。皆様からのご投稿をお待ちしております。

●連絡事項

- ①会員名簿(第3版)'87年度版の在庫が多少あります。ご希望の方は、ご連絡下さい。送料のみでお分けします。
- ②同窓会報 第1・2号の在庫が少々あります。ご希望の方は、ご連絡下さい。お分けします。
- ③田校(事務局)にFAXが入っております。3732-4456をご利用下さい。
- ④事務局では、同窓会全般に協力して下さる方(幹事さん)を探しております。有志の方はご連絡下さい。

編集後記

昨年の暮れまで何回となく編集委員会をもちその後順調に業務が進み皆様のご協力のもとここに会報第3号を発刊される運びになりました。本年は本校も創立70周年に当たりますので、その記念行事イベントの一環として本校の同窓会会員名簿の確立が取り上げられております。同窓会としても今迄になく業者(情報出版社)の力を得てより多くのより正確なより意義ある名簿を作成中です。これも会員皆さんの一人一人のご協力により達成出来るのです。どうか皆様のご協力をお願い致します。

ご寄稿を給りました諸先生、会員の皆様に編集者一同心よりお礼申し上げます。

また年度のお願いですが皆様方のご投稿をお待ち申しております。

ご多忙の折お身体にご自愛下さい。

編集委員長 村松 濱代(17期)

同 委員 青木 茂夫(16期)

” 井上 實(22期)

” 松下 光夫(31期)

” 本田位公子(34期)

” 高橋 洋太(36期)

” 米田 仁昌(学校)